

南風

MINAMIKAZE

「南」は母校のある南港を、「風」は便りに通じ、「南港からの便り」という意味をこめて名づけました。

—発行所・連絡先—
相愛大学人文学部同窓会

〒541-0053
大阪市中央区本町4丁目1-23
TEL/FAX (06)6261-2040(直)
E-mail sj-dosokai@soai-jinbun-dosokai.org
URL <https://soai-jinbun-dosokai.org/>



ご挨拶

相愛大学学長 積 徹 宗

今春より学長をつとめております積徹宗です。これまで以上に相愛大学が良き学びの場となるよう、力を尽くしてまいります。なにとぞご支援ご協力をお願い申し上げます。人文学部同窓会の皆さまにおかれましては、平素より本学への教育・研究・社会活動へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで人文学部の人気は高く、ここ数年は相愛大学をけん引する役目を担っております。入試においても高い倍率を誇っている状況です。人文学部全体における手厚い教育が評価されているのだと思われまます。また、六つの領域（日本文学、歴史・サブカルチャー、仏教文化、心理、国際コミュニケーション、ビジネス・社会）を一通り学んだ上で専攻を決めることができる制度も人気の秘密であると思われまます。考えてみれば、高校生の時点で「自分は何を学びたいのか」

がわからない生徒さんも少なくないに違いありません。それに、学部・学科の名称に惹かれて進学したものの、実際に学び始めると「思っていたものと違う」といった学生もいるでしょう。その意味では、本学の人文学部のような制度はよくできていると思います。ですから、学生の中には入学当初の予想とは異なる専攻を選ぶ人も結構います。これはこれで自覚に基づく立派な学びの態度だと思えます。

さて、そもそも大学は、街の知性・文化の拠点としての役割を担っております。そのため、教職員や学生のみならず、社会や地域も一緒になって、より良い拠点を創造していかなばなりません。そのため、本学でも社会に向かって学びの場を開いていくために、本町学舎にエクステンションセンター（生涯学習センター）を立ち上げたいと考えています。どうか皆さまもご注目ください。現在、本町学舎は相愛中学・高校と共有している状況ですが（校舎建て替えのため）、とにかくアクセスが良く、設備も新しいので、きっと使い勝手は悪くないことでしょう。魅力的な講座を提示していけるような場にしたいと思います。

皆さんもよくご存知の通り、商業都市大阪の中心地・船場で生まれた相愛大学は、百四十年を超える伝統を有しています。大乘仏教の至極とも言われる浄土真宗を基盤とし、長い歴史に裏打ちされた学風は、学生たちの自利利他の心を育んでおります。これは、皆さんが在学中から今日まで変わることの無い学内の気質であり、一朝一夕で手に入らないとても大きな財産だと思えます。そして、その学風から巣立っていった数多くの同窓生は、まさに相愛大学の誇りであり、ポテンシャルであり、大学と社会をつなぐ回路であると言えます。その意味においても、同窓会を運営してくださっている方々には、あらためて敬意を表する次第です。

これからも相愛大学は、大規模大学とは異なる、目のいきとどく丁寧な教育・育成を実践してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



ご挨拶

会長 一階由香

ここでご挨拶をするのは何年ぶりでしょう。こんなにも永らくのご無沙汰を申し訳なく思いつつ、コロナ禍で対面会議の延期を余儀なくしておりました。それでもwith Coronaを実践していく時期に入ったことを自覚して、同窓会活動の本格的再開に至ったわけです。

ところで、いつ明けるともわからないコロナ禍が挨拶の枕詞になって久しくなりました。卒業生のみなさまの生活はどのような変化をみせているのでしょうか。

わたしの職場でも生徒たちの一番の楽しい時間であるはずのランチタイムは「黙食」という新しいことばのもと、担任が監督している教室で、まっすぐ前向いて座って、ひと口入れてはマスクしてモグモグ……誰も何もしゃべらず、文字どおり「黙って食べ」ているのです。なんとも切ない、やるせないランチタイムが繰り広げられています。楽しい学校行事は全て中止され、入学式や卒業式といったけじめの儀式もない学校生活が続きました。2年半が経ち、少しずつ緩和されてはいるものの、完全には戻ってはいません。

大人の世界も会議や面接に「リモート」という新しい様式が加わり、今まで人との直接的な関わりが当たり前とされていた事柄が「オンライン〇〇」と名付けられるようになり、社会との交わりだけではなく、友人や家族との交わりまでもが「リアル」でなくなり、画面越しで行われるのが日常となりました。

そこには今までにない非言語要素への対策が新たに加わりました。ところが、若い世代の新様式への対応力は目を引くものがありました。そのスピード感を伴った適応力は、わたしたち大人の戸惑いやアウェー感を嘲笑うかのようでした。しかしそれこそが人文学の力なのでしょう。

人間関係の構築に欠かせない「想像力」は、現実をしっかりと見据え、裏付けがなくてはなりません。「想像」と「妄想」は似て非なるもの。どちらも非現実ではあるものの、「想像」はその内容がより「現実的」であり、「妄想」には不道德な要素が含まれ、根拠がないのです。すなわち、現実的な人間関係の構築にはhumanitiesと英訳される、まさに人文学が力を発揮するわけです。人間・人為の所産を研究の対象とする学問と説明される人文学です。コロナ禍にあって、科学技術の進歩が問われるのはもちろん、ますます人文学の必要性和有用性が世の中に発信されたのではないのでしょうか。

ご挨拶

学部長 藤谷忠昭



海が見える場所で教えてみたいという夢が叶いました。そう、着任の挨拶で述べておりました。あれから随分たちましたが、お蔭様で、窓からは見えないものの、いまも海を眺めながら出勤しております。住之江に出生し、幼少期を過ごした私にとって、縁深い人生なのかもしれません。

ご存じの方も多いと思いますが、人文学部では、桂春團治師匠と釈学長を中心とする相愛寄席を始め、桂文我先生、宮崎哲也先生、名越康文先生、笑い飯哲夫先生など多彩な客員教授による公開授業を、随時、開催しております。関心をお持ちの内容がありましたら、ぜひ本学のサイト等の案内をご覧ください。また、そうでなくとも、お近くにお越しの際には、お立ち寄りくださいましたら幸いです。



ご挨拶

西迫成一郎

人文学部の卒業生の皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。

コロナウイルスの脅威はまだ続いています。大学では原則対面での授業が行われクラブ活動も再開されてキャンパスに賑わいもどってきました。コロナ禍での行動制限は人々の交流を阻んできましたが、行動制限のない今年の夏休みは帰省などで家族のきずなを再確認できた夏であったかもしれませんね。

“きずな”については、私が専門とする社会心理学でも研究対象となることがあり、一般的な親密さとは何か異なる特別なつながりであると考えられています。相愛に勤めて早くも23年目となりますが、年を追う毎に私にもこの何か特別な関係である“きずな”を相愛にそして卒業された皆様に強く感じています。

皆さまも同じようなお気持ちかと思いますが、卒業してから大学を訪れたことがない方や、同窓会に参加したことがない方もいらっしゃるかもしれません。たとえば、オープンキャンパスに来ていただいて、現在の相愛を見ていただくのも良いかもしれませんね。4月から入試部長を務めていることから、オープンキャンパスの日には必ず私は学内にいます。懐かしい先生方や助手さん方もいらっしゃいます。皆さまとゆっくりお話しできる日を心待ちにしながら、これからも相愛で頑張る所存であります。皆さまもどうか、ますます充実した日々をお送りください。

懐かしの先生から



山本幸男先生

時代は巡って

この3月末に定年退職しました。お世話になった33年間、思い出は尽きませんが、最後の2年間はコロナ禍にたたられて、青息吐息の状態に。皆さんに支えてもらって、ようやくノルマをこなしたような次第です。

これからは、どうするのか。とても重い課題ですが、私の場合は、奉職前のような生活に戻るようになるでしょう。要は、オーバードクター(OD)の頃のような。博士課程を終えたけれど、就職先がない。だから、研究業績を重ねて来るべき機会に備える。研究者の修業時代のようなものです。

では、なにを好んで、そのような時代に戻ろうとするのか。今さら就職先をさがすわけではないのですが、これまで続けてきた、1年に1本は論文を書こう、という私のOD時代からの習性が、そうさせるようです。恩師の影響も大きいですね。生涯をかけて学問に対峙するという姿勢。私には、そこまでの力はありませんが、身の丈に合った成果を残すことが出来れば、本望です。



向井光太郎先生

はじめまして、ごぶさたしております。マーケティングや経営学の担当教員として2017年度から4年間、大変お世話になりました。母の母校(高校、短大)であり、しばらく本町に暮らした時期もあり、着任のご縁をいただいたのは光栄でした。また、人文学部は個性あふれる先生ばかり、和気藹々と温かい雰囲気、毎年なにか新しい取り組みを仕掛ける勢いもあり、調子に乗って好き放題させていただきました。今更ながらお詫びします。

現在は、卒業・修了した母校で、他大学にはない「ハンズオン・ラーニング・プログラム」を担当し、考えることそのものを鍛えることで大学生が自ら学んでいく土台づくりを支えています。それは、相愛大学でも体現できるはず。人文学部の専門の学びに加え、「私たちの社会」を考えてもらいたいと願っています。担当するプログラムには、大阪の都心で開講するものもありますので、皆様とのいつかの「バッタリ」を心待ちにしています。

関西学院大学ハンズオン・ラーニングセンター准教授 向井光太郎



新幹事の挨拶

35期生 磯本 和

はじめまして。35期生の新幹事になりました磯本和です。仕事にも慣れてきて、少しずつですが、余裕を感じるようになりました。私は仕事で疲れた時、休日に好きな映画や本、アニメなどを鑑賞しています。初任給でサブスクリプションをいくつか登録し、欲しいと思っていた本を購入しました。サブスクリプションのAmazon PrimeやU-NEXTでは好きな映画や友人からおすすめされた映画を見て休日を過ごしています。最近見たもので印象に残った映画は鬼滅の刃です。鬼滅の刃は家族愛や兄弟愛に感動できる作品なのですが、私にも弟がいることもあって主人公の炭治郎に良く共感しています。休日はできるだけ仕事から離れることでリラックスしています。僣越ながら、新しくも歴史ある相愛大学人文学部の同窓会を盛り上げていきたいです。何卒宜しくお願い致します。

人文学部創設50周年記念事業

1984年に第1期生を迎えた人文学部はもうすぐ40期生を迎えます。そうすると50周年が目の前に迫ってくるわけです。50年というと「Golden jubilee」です。記念すべき祝典の年となります。

そこで、同窓会として現役学生である後輩のみなさまにお使いいただけるような「なにか」をお贈りしようと考えました。今年度の予算から当該の年度に向けて積み立てをしていきます。

「なにか」については、学長と会長が時間をかけて協議します。先日第一弾が行われました。といっても、メールを交換しただけですが、気分だけは盛り上がっています。

後輩のみなさん！10余年待っていてください。

寄贈図書停止のお知らせ



過去10年以上にわたり、「学生の図書館利用のきっかけづくり」の一環として、数種の情報雑誌を寄贈してまいりましたが、昨今のSNSの普及や、学生の情報収集の方法が変化してきたこと、また、デジタル雑誌の広がりなど状況の変化を鑑み、このたび、同窓会としての図書寄贈をいったん休止（期限は設けません）とすることとなりました。人文学部の特性としては、活字離れは価値観の変化と看過するに忍びないのですが、時の移ろいには勝てない現状です。

今後また同窓会と学生のつながりの手段は模索していきます。何かいいアイデアがあればお寄せください。

新幹事紹介

34期生 2020(令和2)年度卒業	35期生 2021(令和3)年度卒業
池口 勝利	磯本 和
池田 郁	貴島 理恵
NGUYEN THI LAN	董 策
寺西 綾香	DO THI THANH LOAN
羽田 梨乃	中野 茜奈
李 博	長野 佳央

同窓会からのお知らせ

住所・氏名の変更について

学科名・卒業年・氏名(旧姓)・電話、FAX番号・郵便番号・住所・会員番号(会報郵送時の封筒に記載)をこれまでと同様、同窓会室宛にお知らせください。ハガキ、FAX または同窓会ホームページのご住所変更フォームにてお願いします。

〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-23
相愛学園内同窓会室 / FAX 06-6261-2040

人文学部イベント情報【申込制】

- ★名越康文客員教授による公開授業「宗教心理学」
2022年11月25日・12月23日
2023年1月27日・2月17日 【金曜日18:30~20:30】
- ★宮崎哲弥客員教授による公開授業「現代人のための仏教」
2022年12月10日
2023年1月7日・1月28日 【土曜日13:00~15:00】
- ★人文学部教員による公開講座「人文学を楽しむ Part5」
2022年11月26日
2023年2月4日 【土曜日14:00~16:00】

【開催予定】

徹宗・哲弥・哲夫三人による「三ツツ人の仏教問答」
釈徹宗学長、宮崎哲弥客員教授、笑い飯哲夫客員教授
豪華な顔ぶれです。お楽しみに！！

日時：2022年12月14日(水) 開演17時00分(予定)

※各イベント詳細については、
大学HPをご確認下さい。



過去帳 納め

同窓会にお知らせがあった物故者のお名前(同窓生)を、毎年2月に大谷本廟の学園関係者過去帳に記入し、納めさせていただいております。

編集後記 editorial note

前号は新型コロナウイルス感染症が騒がれ出した頃に編集途中でなんとか発行したものの、その後は総会の開催どころか、会議で集まることさえも厳しい時期がありましたが、ようやく新しい会報が完成し、みなさまにお届けできました。久方ぶりに大学や同窓会からの風を感じていただければ幸いです。

編集委員

磯本 和 一階 由香 中村 則子
松原 美佳 安田 圭佑 山田 容子
(五十音順)